

2024年度 寺山公園子育て交流施設「いーてらす」利用状況報告書

1. 年間利用者総数 129,182 人
 前年度 136,485 人 前年度比(100) 94.6 % 7,303 人減

平成30年4月8日開館以来の延来館者数 910,384 人

年間総開館日数 308 日 1日平均利用者数 419.4 人

曜日別利用状況

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	土曜	日曜・祝日	計
0歳児～小学3年生	5,713	6,401	0	6,295	5,908	15,930	26,374	66,621
小学4年生以上	75	59	0	68	43	281	558	1,084
保護者等	4,932	5,796	0	5,702	5,233	14,304	24,436	60,403
ボランティア	9	8	0	13	3	16	14	63
見学	36	39	0	106	23	81	269	554
団体	142	0	0	8	247	0	60	457
合計	10,907	12,303	0	12,192	11,457	30,612	51,711	129,182
日数	42	50	0	50	50	50	66	308
1日平均人数	259.7	246.1	0.0	243.8	229.1	612.2	783.5	419.4
利用者構成比	8.4	9.5	0.0	9.4	8.9	23.7	40.0	100.0

2. 区分別利用状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
月別開館日数		26	26	26	26	27	26	26	26	24	24	24	27	308	
利用者数	0～小3	計	5,592	5,571	5,357	5,382	5,717	6,220	5,586	5,389	3,902	4,713	5,268	7,924	66,621
		1日平均	215.1	214.3	206.0	207.0	211.7	239.2	214.8	207.3	162.6	196.4	0.0	293.5	216.3
	小学4年生以上	計	149	137	67	79	116	87	87	81	48	45	54	134	1,084
		1日平均	5.7	5.3	2.6	3.0	4.3	3.3	3.3	3.1	2.0	1.9	0.0	5.0	3.5
	保護者等	計	5,026	5,289	4,847	4,786	5,097	5,673	5,150	4,864	3,516	4,235	4,866	7,054	60,403
		1日平均	193.3	203.4	186.4	184.1	188.8	218.2	198.1	187.1	146.5	176.5	0.0	261.3	196.1
	ボランティア	計	21	13	0	11	0	0	0	1	6	1	7	3	63
		1日平均	0.8	0.5	0.0	0.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0	0.0	0.1	0.3
	見学	計	93	99	48	34	43	34	84	55	6	10	9	39	554
		1日平均	3.6	3.8	1.8	1.3	1.6	1.3	3.2	2.1	0.3	0.4	0.0	1.4	1.8
	団体	計	0	25	77	29	0	25	152	42	71	0	18	18	457
		1日平均	0.0	1.0	3.0	1.1	0.0	1.0	5.8	1.6	3.0	0.0	0.0	0.7	1.5
	合計	計	10,881	11,134	10,396	10,321	10,973	12,039	11,059	10,432	7,549	9,004	10,222	15,172	129,182
		1日平均	418.5	428.2	399.8	397.0	406.4	463.0	425.3	401.2	314.5	375.2	425.9	561.9	419.4

新規登録人数 1日平均 / 9.3人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
新規登録人数	282	249	247	247	248	266	254	228	145	163	213	329	2,871

利用者登録人数 (2024/4/1～2025/3/31)

登録地区	東区	中央区	北区	秋葉区	西区	南区	西蒲区	江南区	新潟市外	県外	合計
登録人数	704	644	207	138	391	37	37	250	378	85	2,871
割合	24.5%	22.4%	7.2%	4.8%	13.6%	1.3%	1.3%	8.7%	13.2%	3.0%	100.0%

年間運営総括及び来期への課題

・前期に続き、1ヶ月の利用が1万人を超えた月がほとんどで、年間では12万人を超える利用を頂いた。平日の利用が落ち着き、全体での年間利用数は前期に比べて減っているが、日曜・祝日だけでみると前期よりも多い数字となっている。週末になると、1日1,000人以上の利用がある日も少なくなかった。混雑している中でも安全に安心して遊んでいただくために、館内や低学年ひろば（大型遊具）の遊び方を受付で丁寧に説明するよう職員全員で心掛けた。その甲斐あってか「遊び方のお約束」について、多くの親子にご理解いただき、お約束の内容も随分浸透したようだった。安全に遊べるよう、保護者の方が率先して子どもたちにお約束を伝えている姿が増えたのが、この1年で特に実感できた。

・インスタグラムを活用したふれあい遊びやお楽しみ動画の投稿も引き続き行った。「インスタ見ました!」と話される保護者も多く、反響は大きかった。利用者とのコミュニケーションの1つともなった。

・7月には0円バザーを開催した。前回の時期が秋だったこともあって夏服の寄付品が余っていたことから、今期は7月に開催した。1日で400人を超える参加を頂いた。たくさんの寄付品を頂いたこともあり、予定では1日みの開催だったが、翌日・翌々日も「ご自由にどうぞ」と部屋を開放した。アンケートでも好評の声を多く頂いた。

・こい来いフェスタは今期で6年目の開催となった。今期から運営主体が地域のコミュニティ協議会に引き継がれ、地域の方たちが主体となってイベントが開催された。野外でのプロレスの試合も行われ、多くの来場があり連日大盛況だった。5月4日の「ちびっこ広場イベント」は、10時～12時の2時間で700人を超える参加を頂いた。地域の民生委員の方々や、こどもボランティアの小中学生に協力を頂き、多くの親子に楽しんでいただくことができた。また、今期も自主事業としてフリーマーケットを開催し、3日間で37組の出店を頂いた。

・「東区2km子育てトライアングル魅力発信事業」は今期2年目の開催となった。前期に続き、わいわいひろば・こども創作活動館・い〜てらすの3施設でスタンプラリーを行った他、2月に「みんなであそぼう!東区こどもまつり」を開催した。東区の子育て支援センターや小中学校、特別支援学校など多くの団体に協力をいただいた。前回にも増して関係団体の方々との繋がりが深まったように感じている。イベントは大盛況だった。初の試みとして開催したファミリーコンサートも、来場した親子の皆さんから好評の声を多く頂いた。子どもからお年寄りまで幅広い年代が集い、ともにイベントをつくりあげることができた。東区の輪が繋がり、広げることのできた取り組みとなったと感じている。

・開館当初からたくさんの親子との出会いがあった。利用者の保護者から「ここ（い〜てらす）があったから子育てできた」「あの時、ここの保育に助けられました」という言葉をいただいた。親子に寄り添いながら、子どもたちの成長をともに見守るこ

とができたことをうれしく思う。今後も親子や地域の方々にとって、い～てらすが大
切な居場所のひとつであることを願う。

総括・自己評価

・年間で129,182人の利用があった。前年度に比べ、7,303人減少しているが、日曜祝日の平均利用数は前年度に比べて増加傾向にある。お盆や年末年始などは、市外や県外からの利用も多くあった。

・例年同様、地域の小中学校の職場体験や課外授業の見学などを受け入れた。地域の小学生たちが総合授業の一環で、「子育てお助けチーム」として来館し、乳幼児と触れあった他、乳幼児向けの手作りおもちゃを製作してくれた。頂いたおもちゃを館内に設置すると、来館した子どもたちは喜んで繰り返し遊んでいた。小学生のなかには、授業以外にも、放課後にこどもボランティアとして来館し、小さな子どもたちと触れあったり、職員の手伝いをしてくれたりした生徒もいた。小中学校との連携も更に深まった1年であった。

・一時保育は、前期に続き予約の希望が多く、ニーズの高さがうかがえた。初めて利用する子どもや配慮が必要な子の利用も多かった。職員は一人ひとりに寄り添った保育を大切にしたい。それぞれのペースに合わせて、安心して過ごせる保育環境を提供することができたと感じている。予約の枠に余裕がなく希望に応えられない日もあった。保育枠・職員の確保は課題である。

・定例イベントも、前期に引き続き、アンケートや親子の反応から好評の声を多くいただいた。「おしゃべりテラス」は、今期も同じ母親にファシリテーターとして年間を通して参加して頂いた。また常連の母親1名にも新たにファシリテーター加わっていただいた。毎回様々な話題で盛り上がった。母親・父親同士、悩みや不安をありのまま話して共感しあえる場となっていた。出産を控えるプレママの参加もいただいた。出産に向けて、先輩ママ達からアドバイスやエールがおくられる場面もあった。

・職員は日々利用者との関わりを大切に心掛けた。明るい挨拶や声かけ、親子のサポートを意識して行うことで、親しみやすい雰囲気を作った。子育てに対する不安や悩み、焦りを抱える保護者も少なくない。日々の関わりの中で親子の困り感を受けとめ、寄り添う姿勢を心掛けた。同時に“記録”と“振り返り”を重要視し、職員間で共有することで実践に活かした。そうした日々の積み重ねがあって、親子との信頼関係を築くことができたと感じている。